

全国一の産地で春フキの出荷スタート

「ジェットパック」で手軽にお楽しみ頂けます

全国一のフキ生産地である知多半島で、春フキ（品種は愛知早生ふき）の出荷が始まりました。知多のフキは（知）（まる知）のフキとして関東・中京・関西の各地へ出荷され、全国で流通するフキの4割以上を占めています。

フキ包装規格を見直し

出荷にかかる労力削減と手軽にフキを味わってもらうことを目的に、包装規格の見直しを実施しました。写真上が令和元年作から取り組んでいる「ジェットパック」の規格で、一般的には捨ててしまう葉の部分落とし、乾燥状態に配慮し、時期に応じて丸穴が複数空いた袋など2種類の袋を使い分けて出荷します。写真下のラップで巻かれたこれまでの出荷規格よりも、生産者の手間が省けて、消費者も買い物時の荷物が減り、調理が手軽になることから、双方にメリットがあります。現在、「ジェットパック」で出荷する生産者は29人と年々増えており、主流になりつつあります。



写真上が「ジェットパック」、
写真下がラップ巻きの規格

伝統野菜「愛知早生ふき」

「愛知早生ふき」は今から200年ほど前、知多半島の加木屋村（現在の東海市加木屋町）で庄屋を代々つとめていた、早川平左衛門宅で自家用に栽培されていたものと言われています。明治時代に尾張地方に広がるとともに、関西にも広がりました。西日本で栽培されているフキのほとんどが、東海市で生まれた「愛知早生ふき」です。

長期にわたり出荷

フキは本来春の野菜で、野生で育つと4月ごろが収穫時期になります。知多半島では夏に一定期間冷蔵した根株を植えることで、秋に収穫を可能にした「秋フキ（抑制栽培）」と、ビニールハウスを使って保温することで2月初めから収穫を可能にした「春フキ（促成栽培）」を組み合わせ、10月から翌年の5月末まで収穫を可能にしています。



収穫の様子

<知多地域のフキの概要>

栽培地域：東海市、知多市、南知多町で 28.2ヘクタール（今年度）

出荷規模：JAあいち知多ふき部会 会員45戸 年間1446トン（今年度見込み）

収穫時期：10月～1月「秋フキ」 2月～5月「春フキ」

<お問い合わせ先> 農家の紹介を含め、随時取材対応します。お気軽にお問い合わせください。

JAあいち知多 企画総務部 広報情報課（山内 直之）

TEL：0569-34-9952 FAX：0569-34-9963 E-mail：koho@agris.or.jp